

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第11号

平成13年4月1日

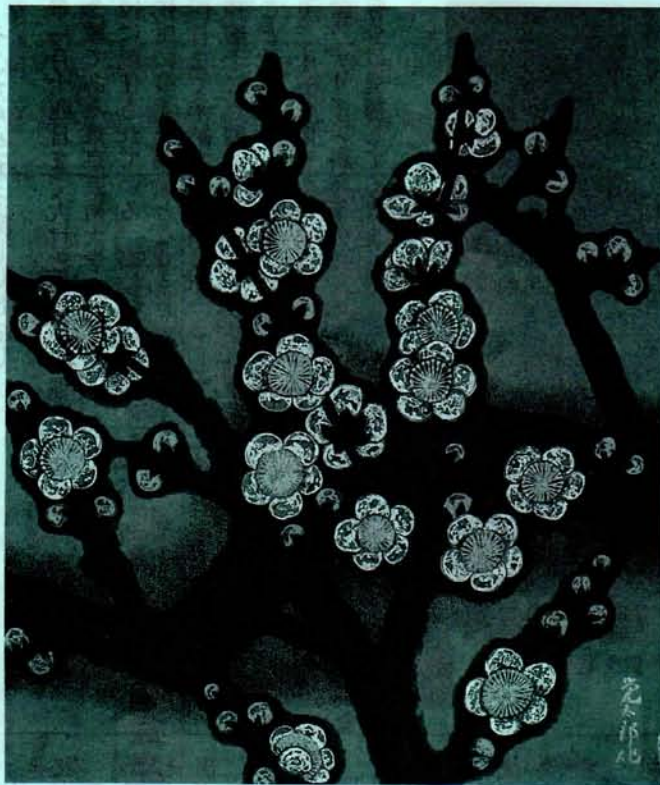
所蔵作品紹介

(10)

漆絵額「紅梅」

山崎 寛太郎

五〇×四五・五cm



青井記念館美術館はぐくみ会

会長 玉井 晶夫

平成6年9月に高岡工芸高校創立一〇〇周年を記念して設立された青井記念館美術館も平成9年9月には入場者5万人を突破して現在8万人を超えております。

この間文化の時代にふさわしい美術品コレクションの展示の場として、また地域に開かれた美術館として努力してまいりました。働きすぎの時代から、多様化と感性を高めるゆとり時代の移行して、いつまでも誰でも自由に入館できるように、親しみやすさや、優しさをもち、普段着で気楽に楽しむという美術館づくりを目指しました。納富介次郎初代校長をはじめとする日本を代表する作家の作品の収蔵作品の展示や、同窓生ギャラリーという現在活躍中の作家の企画展、さらに青少年の美術教育の推進としての青井中美展も企画しました。二十一世紀を迎えて、学校教育の一環としてだけでなく、地域、生涯の文化遺産として、社会教育の目的や美術鑑賞という機能は基本的に変わりませんが、市民や地域に開かれたギャラリーとして参加して楽しむという方向性も位置づけ、美術館を広く活用していきたいと美術館運営委員会でも話し合われています。

また、美術館の収蔵部門は、施設の中でも重要な部門ですが、この収蔵部門を充実する意味でラックを新設して、保存環境を高めることができました。

今後共地域文化向上の拠点としてこの美術館をご理解いただき、皆様のご意見を極力展示に反映させたいと考えています。日頃の御礼と益々のご支援をお願いいたします。

(アキ・デザイン主宰)

同窓生ギャラリー

大村雅章展

— デッサン・油絵 —

米納宗宏彫刻展

— そしてかもめ・他 —

が開催される

一期一会展

— そこから生れる新しい出会い —

十二月二十三日より平成十三年一月十四日まで大村雅章展が開催されました。昭和五十四年デザイン科を卒業し、二浪後念願である東京芸術大学 油絵科へ、大学院終了後作家活動が続け、昨春より金沢大学助教授に就任されている。高校時代、浪人、芸大、現在に分けてデッサンと油絵を展示され、在校生に多大な刺激となりました。

その後一月二十一日より二月四日まで米納宗宏彫刻展が、そしてかもめシリーズを中心に日展初入選作品から今日までの裸婦十二点展示されました。氏は昭和五十年工芸科を卒業され、高岡での個展が初めてとのこと。連日多くの方々が祝福に来館されました。

本年度最終展が二月十一日より二十五日降雪の悪条件下で「一期一会」展が開催されました。本校卒業生三名 昭和五十九年 デザイン科卒業の林正人氏他七名が様々なモノづくりの分野が集まり、若者の心意気を存分に発揮してくれました。期間中七二五名の人達が見学に訪れ活況呈しました。



大村氏の作品



米納氏の作品



一期一会展会場

所蔵作品紹介

(10)

表紙

漆絵額「紅梅」

山崎寛太郎

昭和四十九年に制作され六月二十四日本校の創校八十周年記念として寄贈された。

又同年、社団法人日展の会長に就任され栄ある佳き年であった。

豪華絢爛赤く満開に咲く紅梅と、太く雄々しい幹のたくましい構成の迫力には圧倒される。七十五歳という老境にもかかわらず内から湧き出ずる情熱は、見る者を魅了する。

色鮮やかな漆と形体の輪郭に表現された隈取りによって絵画表現以上に彫刻に匹敵する重量感を感じさせている。

作者紹介

明治三十二年東岩瀬町に生まれる。大正八年本校漆工芸科髹漆部を優秀な成績で卒業。その後東京美術学校漆工科に進む。十三年同校を卒業する。十四年より同校の助手となる。以降昭和二十一年に辞するまで講師・助教授を務める。作家活動は美術学校卒業の翌十四年パリ装飾美術博覧会に金賞を受賞、翌十五年新しい工芸を生み出そうと「无型」を創設、他に帝展、日展に出品を重ね、昭和三十七年現代美術家協会を結成される。晩年まで創作意欲は盛んであった。

昭和五十九年 死去 八十五歳

第七回青井中美展 結果報告

開催期間 平成十二年十二月二十三日(木)
十二月二十五日(火)参加校 五十八校
応募総数 八九六名

各受賞者

青井大賞

菅本 千晶 (学校名)

富山県知事賞

吉村 洋平 (南星)

富山県教育委員会教育長賞

高島 智子 (速星)

最優秀賞

柴田 陽子 (富大附属)

優秀賞

加藤 由佳 (高岡西部)

富山新聞社優秀賞

磯野 亮太 (高岡西部)

チューリップテレビ優秀賞

松原 俊介 (牧野)

優良賞

八幡磨未子 (福光)

富山新聞社優良賞

荒引加奈子 (和合)

チューリップテレビ優良賞

砂子 翔 (滑川)

佳作

小島 幸恵 (水見北部)

佳作

橋爪 詩乃 (福野)

佳作

山上 晶子 (小杉南)

佳作

伊藤 栄祐 (福川)

佳作

早川 智也 (福野)

佳作

島倉 美久 (堀川)

佳作

塔川さくら (高岡西部)

佳作

京田 史永 (志貴野)

佳作

上野 恵子 (八尾)

佳作

松野亜理沙 (南星)

佳作

谷井 浩一 (蟹谷)

佳作

若井真理雄 (高岡西部)

佳作

加村 美樹 (ふるさと養護)

佳作

八尾中学校

南星中学校

高陵中学校

特別展 高岡銅器明治期彫金名作展が好評

十二月十七日(月)より十三年四月一日(月)まで開催中。

高岡銅器の歴史の中で明治時代は、名工を一番多く輩出している。明治六
年業界から初めてウィーン万博に出品し高岡銅器の名を高める発端となっ
た。以降明治末期まで数多く参加、出品された作品は入賞し、買上げとなっ
た。高岡に伝わる作品が少なくなった。

当時の名工の作品が残っていない理由として、他に明治三十三年高岡市の
大火、第二次世界大戦への銅製品の供出など考えられる。現在青井記念館
美術館には関義平作「狎」置物をはじめ十一一点所蔵している。明治期に活躍
された名工達の香炉、花瓶、置物など華麗な技が見ごたえある。



知事賞作品



教育長賞作品



青井大賞作品

第七回青井中美展は昨年十一月二十二日表彰式
及び開展式を来賓、審査員、受賞者、関係中学校
など多数出席し盛大に挙行され、翌二十三日より
十二月五日まで一般公開された。

青井大賞に輝いた「古からの流転」は、地球環
境をテーマにしたデザイン作品で、表現力・訴求
力・ボリューム感とも優れ超中学生級として評判
よく又、富山県知事賞の「気合い」は彫塑作品な
がら人体のバランス・リズム・量感など見事な表
現である。洋画の教育長賞の「溪谷」は色彩感覚
もよく魅力ある作品である。

その他絵画部門、彫刻・工芸部門、デザイン部
門とも中学生らしい力作も多く、入選・入賞作品
も回を重ねるごとに向上して
いる。



工芸科・デザイン科の秀作 卒業制作展が人気

平成十二年度工芸科とデザイン科卒業生の卒業制作展が三月六日より四月一日まで開催されている。

本年度最優秀に輝いた工芸科屋鋪さんの木工家具「ベンチ」他に金工と漆芸作品。デザイン科齊藤さんの高岡のシンボル大仏様を広く知ってもらい、親しまれるように「高岡大仏のPR」作戦が光り他にビジュアルデザインとプロダクトデザインなど両科六名の優れた作品が展示されている。



青井記念館美術館が 「富山県博物館協会に加盟しました」

平成十二年九月、富山県博物館協会に加盟しました。このことから青井記念館美術館の展示内容が県博協のインターネットのホームページでも検索することができるようになりました。例えば同窓生ギャラリーの内容をより詳しく知ることができます。

今後他館との交流が増え、展示・広報活動に幅が増えることが期待されます。

<http://www.jeiims.co.jp/toyama-museum/>

寄贈作品の紹介

岡田 晃氏 作

銅「おこぜ」

香川県立高松工業高校百周年記念品



松尾勝也氏 作

陶磁「艶釉一輪差し」

佐賀県立有田工業高校
百周年記念品



林 清納氏 作
洋画

「インドの女 悠」
本校平成12年度
卒業生寄贈作品

はぐくみ会会員 募集のお知らせ

はぐくみ会では会員を募集しています。

申し込まれた日から一年間会員となります。

主な活動

- 1 青井記念館美術館への協力・支援
- 2 中学生美術展(青井中美術展)への支援

特典

- 1 企画展等の案内
- 2 はぐくみ会だよりの配布

年会費

一般会員(個人)

二、〇〇〇円

特別会員(企業、団体等)

一〇、〇〇〇円

お問い合わせ・申し込み先

青井記念館美術館はぐくみ会事務局

編集後記

暖冬との予報に反し三月十日に積雪をみる。その雪が陽陰などに残っている。去る十二月二十八日、十二町仁三氏が逝去されました。氏は、創立百周年美術品の収集事業の日本画担当委員として寄贈作品の事業推進に尽力されました。

百周年以降、青井記念館美術館の運営委員としてご指導ご鞭撻いただきました。昨年度「二人展」を開催していただいた折に作品と下図を併せて展示する新趣向をとり入れられるなど、意欲的な姿勢がその後開催された若い作家さんに影響を与えています。

氏の作品にかけられた情熱と母校愛は末永く語りつがれるでしょう。

当美術館では皆様のご意見を極力展示に反映させたいと考えています。

ご意見、ご希望があればぜひお聞かせ下さい。

編集発行

富山県立高岡工業高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会

住所 933-8518 高岡市中川一丁目二〇

TEL (076) 221-1630 (内線85)

FAX (076) 221-1631

* 青井記念館のホームページを開設しております。
<http://www4.justnet.ne.jp/~kougei-2/>